

米FOMCは追加利上げの見送りを決定

- 米連邦公開市場委員会(FOMC)は、全会一致でFF金利の誘導目標を0.50-0.75%で据え置く決定を下す。
- 大統領選挙以降、トランプ政権の景気刺激策への期待を背景に台頭した利上げ観測も、足元では落ち着きつつある。
- FOMCは緩やかに金融政策を調整する方針。今後の景気動向やトランプ政権の景気刺激策の行方が判断材料に。
- 足元で消費者および企業の心理が改善傾向。今後は企業心理の改善が雇用拡大の継続に繋がるかも注目される。

FOMCは全会一致で政策金利の据え置きを決定

米連邦公開市場委員会(FOMC)は2月1日(現地時間)、市場予想通り、フェデラル・ファンド(FF)金利の誘導目標を0.50-0.75%で据え置く決定を下しました。決定は10名のFOMC投票メンバーの全会一致でした。

先物市場での利上げ観測も落ち着きつつある

2016年11月8日の米大統領選挙以降、金利先物市場ではトランプ政権による景気刺激策への期待が高まり、米連邦準備制度理事会(FRB)による利上げ観測が台頭してきました。もっとも、2016年12月14日にFOMCが0.25%の利上げを決定し、FOMC参加者による緩やかな利上げ見通しが示された後は、トランプ政権の発足に伴う政策の進展に市場の注目が移り、金利先物市場での利上げ観測も足元では落ち着きつつあります(図1)。

FOMCは緩やかに金融政策を調整する方針示す

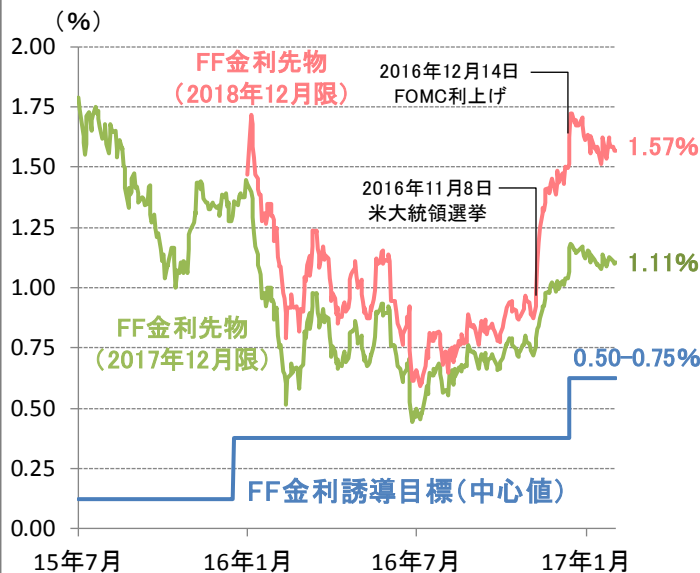
今回のFOMC声明文では、先行きの利上げ時期や利上げペースに関する具体的な言及はなされず、景気動向を見据えながら緩やかに金融政策スタンスを調整する方針が示されました。今後は、1月20日に発足したトランプ政権が進める減税など景気刺激策の行方もFRBの金融政策を左右する要因になると考えられます。

足元で消費者や企業の心理が改善傾向

FOMC声明文での景気判断では、「足元で消費者および企業の心理が改善している」との言及が新たになされました。2017年1月の消費者信頼感指数は2004年1月以来の水準へ上昇したほか、同月の製造業景気指数も5カ月連続での製造業の活動拡大を示しています(図2)。

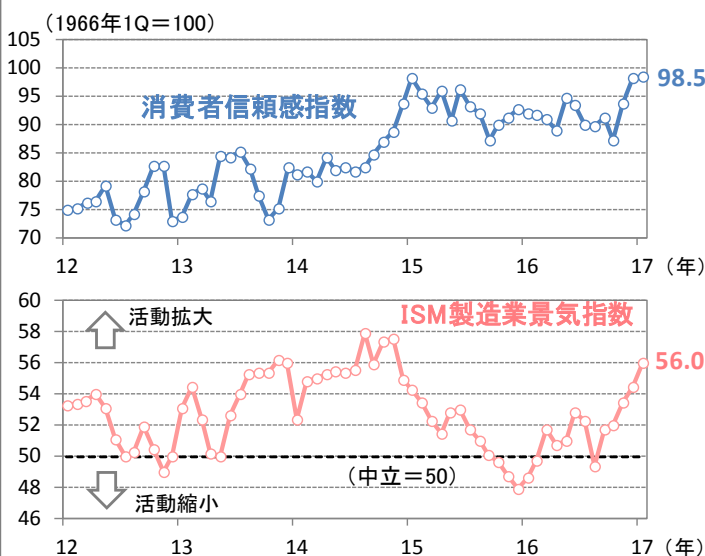
イエレンFRB議長は、1月18日の講演で米国の労働市場は完全雇用に近い状態にあるとの見方を示しており、今後は企業心理の改善が雇用拡大の継続に繋がるかも注目材料となりそうです。

図1:米国の政策金利とFF金利先物の推移



(出所)米連邦準備制度理事会(FRB)、ブルームバーグ
(期間)2015年7月1日~2017年2月1日

図2:米国の消費者信頼感と製造業景気指数



(出所)米供給管理協会(ISM)、ミシガン大学
(期間)2012年1月~2017年1月

●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。